つなげていきたい
あした
がある。





東邦ガスネットワーク







はじめに

東邦ガスネットワーク株式会社は、
東邦ガス株式会社からガス導管事業等を継承し、2022年4月に事業を開始しました。
都市ガスの需要開発、導管の建設・拡張を行い、都市ガスの普及拡大を通じて
温室効果ガスの排出削減に貢献しています。
加えてe-methane(合成メタン)・水素など脱炭素に寄与する
エネルギーの供給に取り組んでいきます。
今後も時代の変化や多様化するお客さまのニーズを適切にとらえた
エネルギー・サービスを提供していきます。

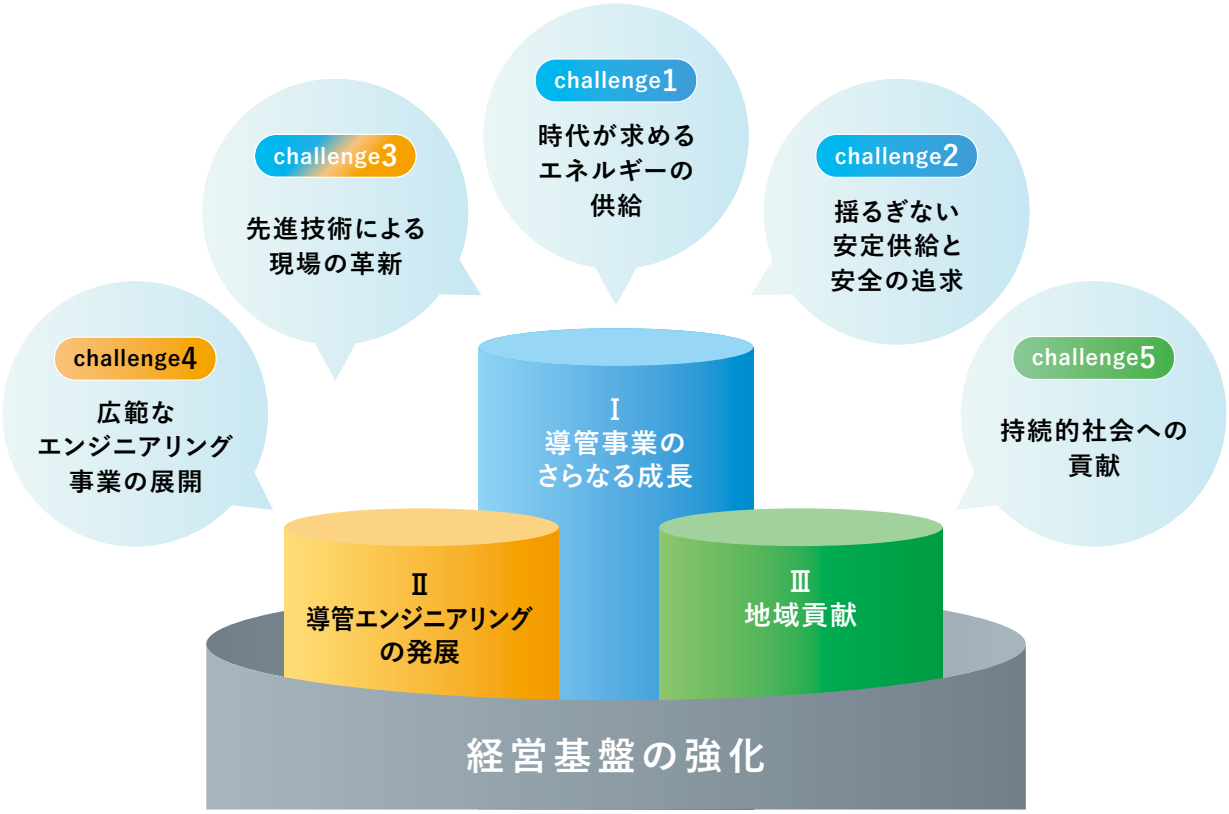
企業理念

つなげていきたい あした がある。



わたしたちが大切にする理念を、事業のコアである導管をモチーフに記載。
事業の成長性、未来へのつながりを、導管を覗き込んだ際の奥行で表現しています。

ビジョンの全体像



東邦ガスネットワークが果たすべき役割

Ⅰ 社会の低炭素化、脱炭素化に寄与するエネルギーを、
地域に拡がる導管網と先端技術を活用して、安定的に安全に届けます。

Ⅱ 導管事業で培ったエンジニアリング力を幅広いインフラ事業者へ展開していくことで、
社会課題の解決に貢献します。

Ⅲ 地域に根差す事業者として、サステナビリティを重視し、
地域のレジリエンス向上をはじめ、社会貢献に積極的に取り組みます。

都市ガス導管 総延長 約30,000km

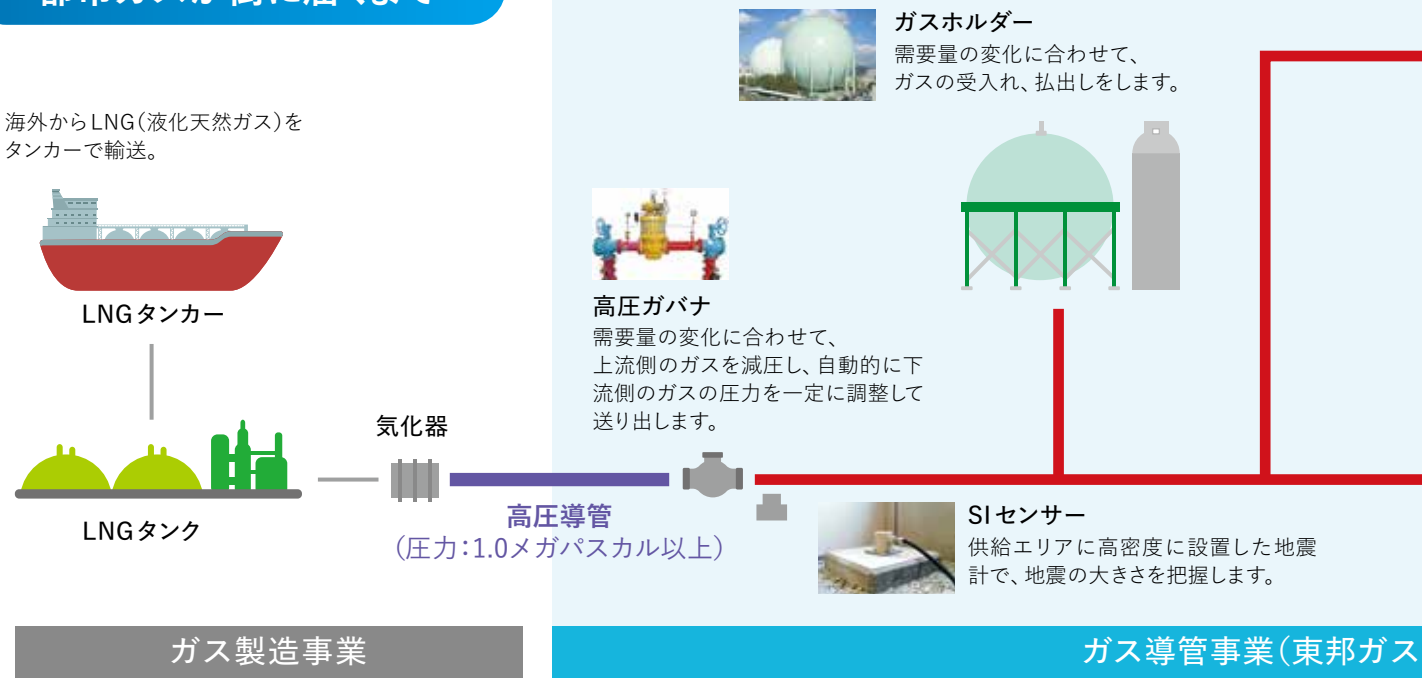
都市ガスお客さま数 約250万件

年間都市ガス輸送量 約40億m^3

時代が求めるエネルギーの供給

2050年のカーボンニュートラル達成に向け、
環境負荷の少ない天然ガス（都市ガス）の普及拡大に加えて、
脱炭素を可能とするe-methane（e-メタン）・水素など様々なエネルギーが求められます。
時代の変化や多様化するお客さまのニーズを適切にとらえた
エネルギー・サービスを提供していきます。

都市ガスが街に届くまで



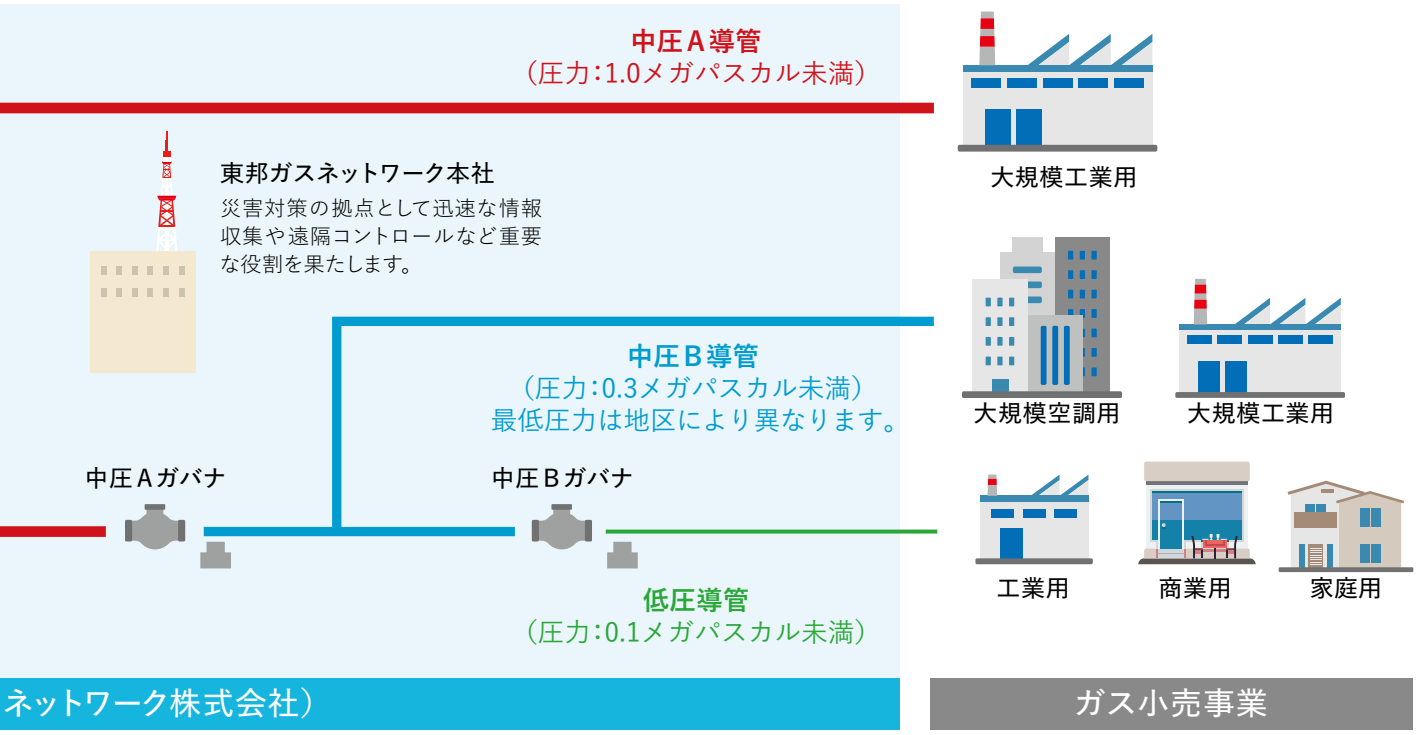
ガス導管の建設

東邦ガスネットワークのガス導管総延長は約3万ｋｍ。愛知・岐阜・三重の皆さまに都市ガスをお届けしています。
今後も、都市ガスの拡販につとめるとともに、中長期的な視点からガス導管網の整備・拡充を進めていきます。







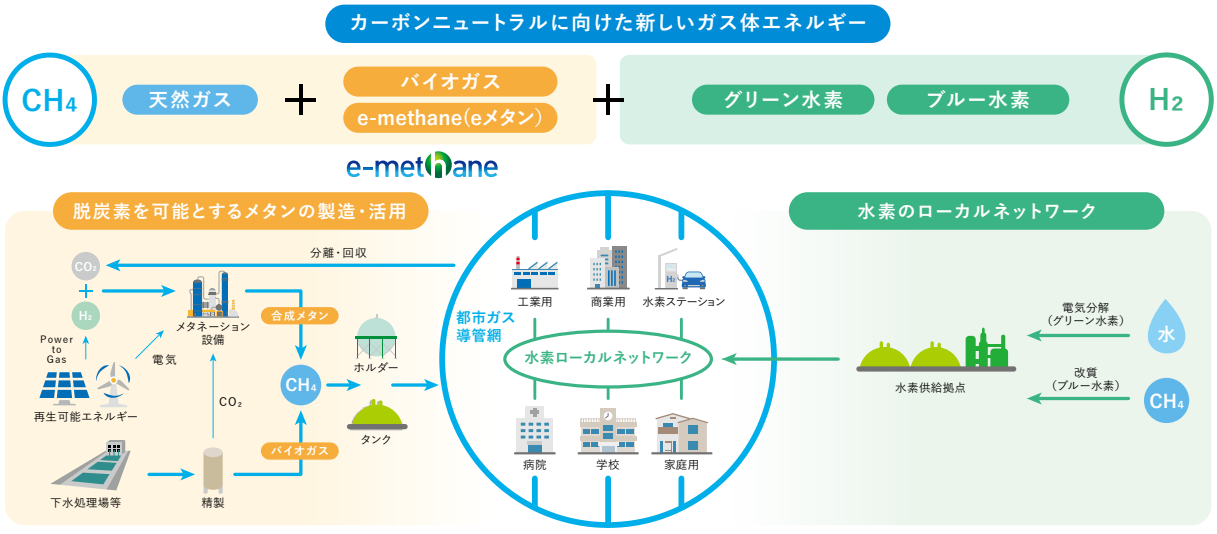


ネットワーク株式会社）

ガス小売事業

脱炭素化への挑戦

化石燃料の中でCO_2の排出量が少ない天然ガスの普及拡大を通じ、トランジション期の低炭素化に大きく貢献します。さらに2050年カーボンニュートラルの実現に向けては、既存の導管網を最大限に活用し、新しいガス体エネルギーをより効率的、低廉に供給するための技術開発、設備形成を推進します。また、ローカルネットワークによる水素のパイプライン供給に挑戦し、地域のお客さまニーズにお応えするエネルギー供給を実現します。



都市ガスの普及拡大

家庭用・業務用それぞれのお客さまの様々なご要望にお応えし、都市ガスへの燃料転換や新規需要開発を進めることで、環境負荷の低い天然ガスの普及拡大につとめます。また、都市ガスの普及拡大を通じ、ZEH・ZEBといった建物の省エネを促進するとともに、停電対応型のコージェネレーションシステムやGHPによるレジリエンス向上といった社会課題の解決に貢献します。

さまざまな場面で活躍する都市ガス



給 湯
家庭用燃料電池
（エネファーム）
省エネ高効率給湯器
（エコ・ジョーズ）



暖 房
ファンヒーター
温水式床暖房



調 理
コンロ



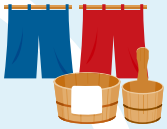


ボイラー

マンション

戸建て





温浴施設



飲食店

学校



厨 房

病院

工場



停電対応GHP（ガス空調）



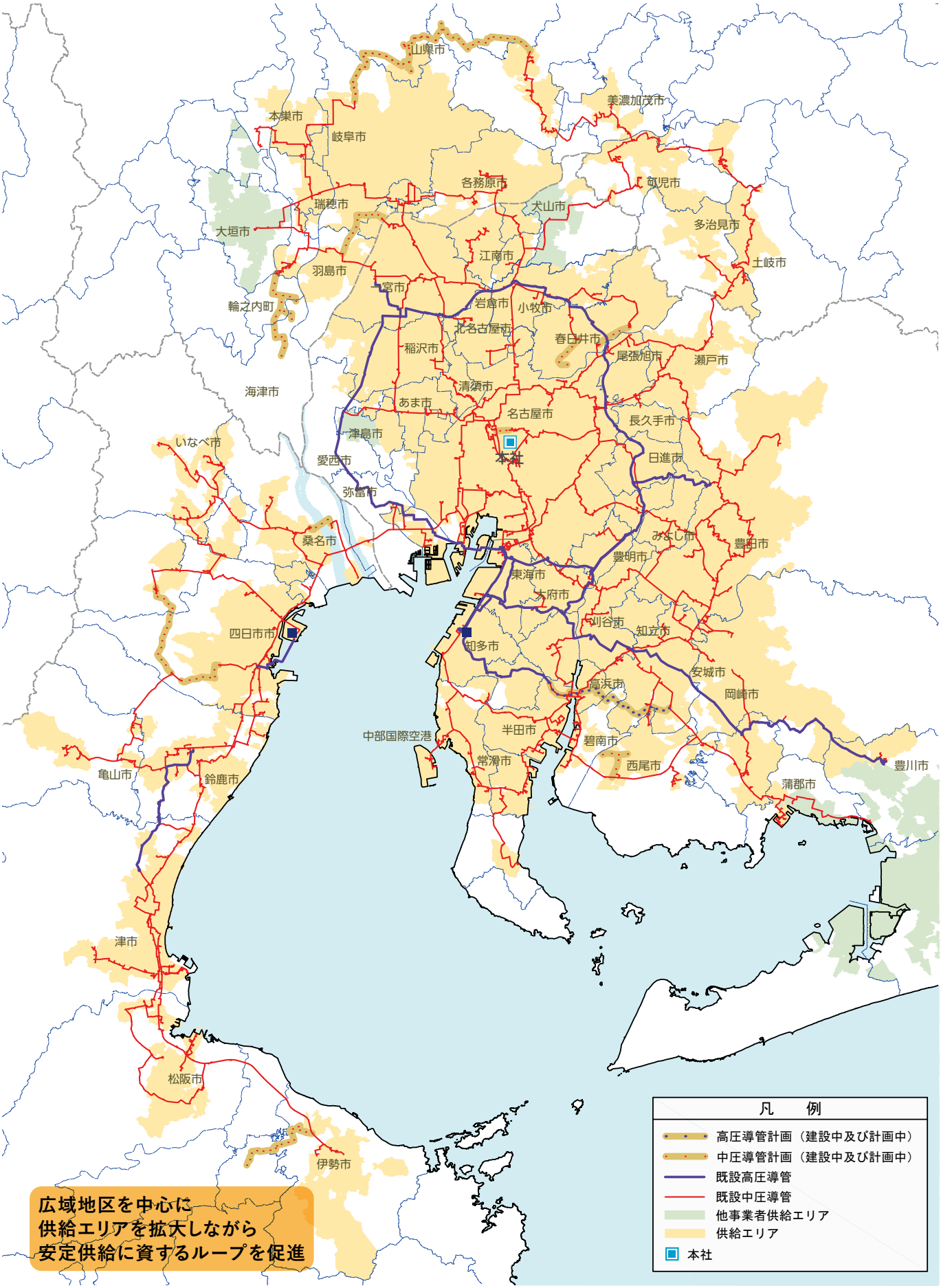
停電対応
コージェネレーションシステム



燃焼炉



当社都市ガス供給エリア



広域地区を中心に
供給エリアを拡大しながら
安定供給に資するループを促進

「他ガス事業者の供給エリアは2024年度供給計画図等を参照しております。」

2026年4月現在

揺るぎない安定供給と安全の追求

都市ガスをいつも安心してご利用いただくことはもちろん、
災害など緊急時においても、迅速に復旧することが求められます。
維持管理、防災対策を通じて常に設備の健全性を確保し、
都市ガスを安定的に、安全にお届けします。

保安の確保・安定供給のために

24時間365日、お客さまの保安を守り、安定してガスをお届けします。





緊急車両

緊急保安センター

緊急保安センターでは、ガス漏れなどの万一の事態に備え、お客さまからの通報を24時間365日体制で受け付けるとともに、すみやかに出動し最適な保安措置がとれる体制を整備しています。
広範囲で大規模な緊急事態が発生した場合でも、即時に特別出動体制を編成して保安の確保にあたります。





本社無線塔



無線中継局

供給防災センター

供給防災センターでは、都市ガスを24時間安定してお届けするために、ガス導管網の圧力、流量の監視をはじめ、都市ガスの需要量を予測し、ガス製造工場などの各拠点に対して製造量の指示を行っています。
ガス圧力・流量状況や、設備の稼働状況を確実かつ迅速に監視・制御する「供給自動管理システム（MACS III）」を構築しています。大規模災害などの緊急時には、ガス供給設備を遠隔操作し、ガス供給停止の操作を行います。



維持管理

都市ガス供給設備の機能や安全性を確保するために、定期点検・設備更新を行っています。
また耐震性向上のため都市ガス導管の更新を計画的に行っています。





耐震化のための導管入替工事

保安・防災 人材の育成

高い安全意識と高度な技能を実践感覚で習得できる「安全技能研修センター」をはじめとした教育訓練施設を活用し、日頃から保安・防災に携わるすべての従事者へさまざまな教育を行っております。作業ミスの撲滅やベテランの技能伝承など、現場作業を確実に行うため、技能認定制度に基づいた教育や技能競技会の開催など、現場力向上に向けた取り組みを実施しています。また、災害発生時の対応を的確に行うため、定期的に防災訓練を実施しています。



技能選手権の様子（ガバナ維持管理作業）

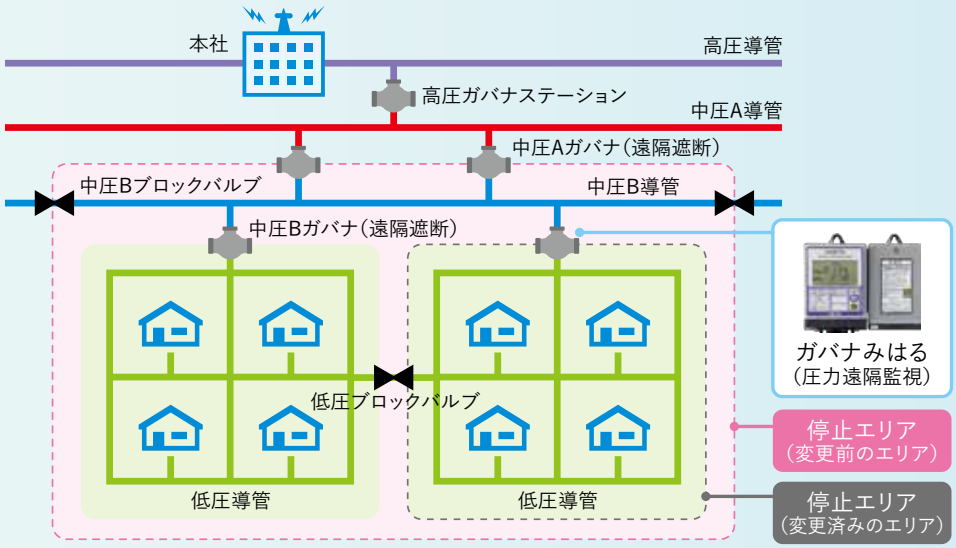


技能選手権の様子（ガス漏れ修理作業）

緊急対策

大地震などを想定した各種の防災対策に取り組んでいます。例えば、災害時に部分的にガス供給を遮断するブロック化については、低圧遮断ブロックのさらなる導入と、ブロックの細分化、供給停止基準の最適化により、災害時の供給停止範囲を最小化します。







災害対策本部

復旧対策

災害により都市ガスが供給できなくなった場合、安全・確実な復旧活動を行いガス供給の迅速な供給再開を目指します。また大地震発生時には、当地域のガス小売事業者および全国のガス事業者などと協力し、早期復旧に向けて取り組みます。



設備対策

十分な耐震性をもつガスホルダー

強固な基盤まで基礎杭を打ち込み、地震の揺れを吸収・緩和する装置（ダンパー）を取り付けるなど、大地震にも十分耐えられるように設計しています。
また、火災や落雷にも備えた設計になっており、万一の場合でもガスホルダーの安全性を確保しています。


ガスホルダー

耐震性に優れたガス導管

地震による地盤の動きに対応できるよう、耐震性に優れたガス管材料・接合方式を採用しています。低圧のガス管については、腐食する恐れがなく、半永久的な寿命を持ち、可とう性に優れたポリエチレン管の普及を進めています。
また、ガス管は定期的な点検、整備を行い、安全性を確認しています。


ポリエチレン管の曲げテスト


ガス管の定期点検

供給設備の津波対策

大規模地震による津波発生時の緊急対応を迅速かつ確実に行うため、警報や潮位情報を集約する「津波判断支援システム」や「浸水範囲・到達時刻の予測システム」を導入しました。また沿岸部には、「津波監視カメラ」・「水位センサー」等を設置し、監視を強化するほか、津波の影響が想定される設備では、津波の浸水に耐えられるように各種対策を行っています。


津波判断支援システム


防波壁と水密扉

風水害対策

気象監視体制の整備

台風や集中豪雨等に備えるため、気象情報システムを導入し、24時間体制で情報を監視しています。
システムによる高精度な雨量予測に加え、ガバナ等の供給設備について浸水リスク評価をリアルタイムに実施します。災害につながる恐れのある情報を把握した場合には、災害発生防止のための対応を速やかに行います。

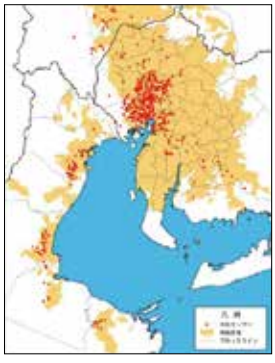

気象情報システム

気象状況の把握
＋
高精度な雨量予測
↓
設備の浸水リスク評価

水位センサーによる把握

供給エリアの当社設備約400か所に水位センサーを設置しており、設備の浸水情報を把握します。
水位センサーで、本社から離れた設備でも遠隔で浸水状況を監視することができ、被害を最小限に食い止めるための対応を早急に行います。


水位センサー


水位センサーの設置位置

先進技術による現場の革新

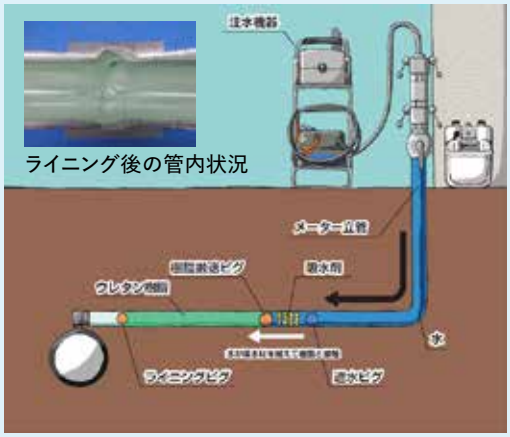
導管や設備の建設・維持管理において、作業を確実、
かつ効率的に遂行するためには、先進技術を活用が不可欠です。
非開削技術をさらに開発・導入するとともに
デジタル技術やAIの高度な活用を推進します。

ガス導管建設工事の高度化

全てのガス工事に対して非開削工法・更生修理工法を開発・導入し、低コストと建設発生土の最小化による環境負荷の更なる低減をはかります。



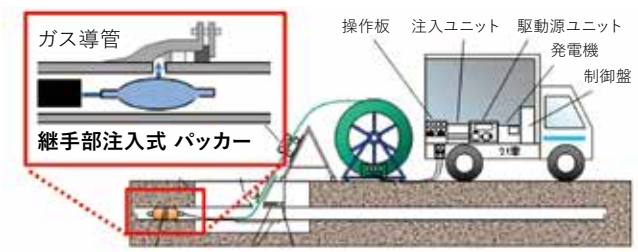
非開削工法（STREAM工法）の開発・活用



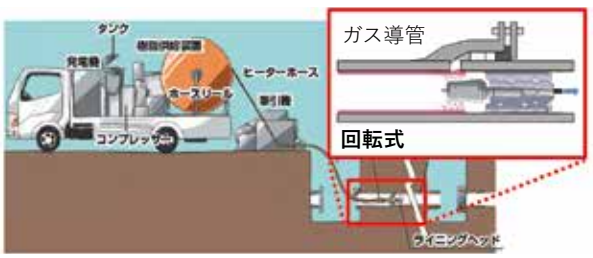
道路を掘削しない供内管対象更生修理工法

AIと更生修理工法を活用した経年管対策の推進

2030年までに漏えい件数を半減させることを掲げた保安目標2030の達成に向け、スタートアップ企業と共同でAIによる本支管の劣化予測ならびに供給管の将来状況予測を実施するとともに、本支管の更生修理工法の開発を行っています。



継手部漏洩予防工法 イメージ図



直管部漏洩予防工法 イメージ図



デジタル技術の活用推進

VR(バーチャルリアリティ)技術

VR技術を工事・維持作業の研修に活用することで人材育成や技術伝承をはかっています。何度も実地研修を行うことが難しい特殊な設備なども、VRの活用により実地に近い形での経験を繰り返し復習することができ、効果的な訓練が可能となります。



VR技術を応用した研修

スマートメーター

2023年度から段階的に導入を開始したスマートメータは、お客さまの状況を遠隔で把握でき、平常時では検針の効率化に加え、異常の早期発見による迅速・確実な現場対応を可能にします。また災害時では、遠隔でも遮断・復旧機能を活用した復旧作業の迅速化などが期待できます。



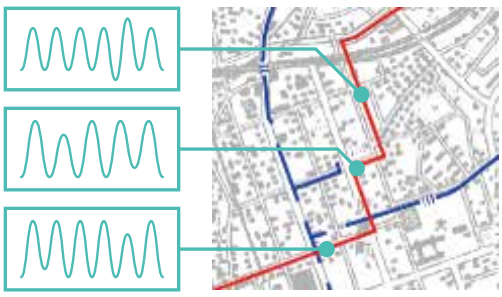
AIによる維持管理の高度化

AI技術を活用することにより予知保全による維持管理の高度化を実現します。

予知保全

設備の異常検知

リアルタイムのデータから設備異常の傾向を検知



更新対象の選定

埋設環境の違いを考慮して
ガス管の劣化を予知し、経年管対策を実施



劣化予測図　　劣化したガス管

広範な
エンジニアリング事業の展開



地域インフラの老朽化や人口減少による人手不足は喫緊の社会課題です。
当社の導管エンジニアリングを、幅広いインフラ事業に展開し、
こうした課題解決に貢献すると同時に、新たな収益基盤を構築していきます。

広範なエンジニアリング事業の展開

非開削工法、ICTやデジタルなど最新技術を活用した現場管理・維持管理、グループ会社と協力会社の経験豊富な戦力など、当社ならではの導管エンジニアリングを、他のガス事業者や水道事業者など幅広いインフラ事業者へ展開を図り、地域インフラの老朽化対策や建設業界全般の人手不足などの社会課題解決に貢献していきます。

非開削工事技術

水道管への
STREAM工法の適用





道路を掘削しない
供内管更生修理工法

先進技術による維持管理



整圧器の遠隔監視
（ガバナみはる）



ガスホルダーの
超音波検査ロボット

東邦ガスネットワークの強み　技術　ノウハウ　戦力

ICTを活用した現場管理

— 3D図面化技術 —



データ取得



3D図面化



マッピング



事務業務の自動化

デジタル技術

スマートメーターのデータ活用



地区毎、時間帯毎のデータ
- ガス使用量
- 圧力
- （地震時）SI値



管路の劣化予測



スマート交通システム

持続的社会への貢献

地域に根ざす事業者として、地域レジリエンスの向上をはじめとする
社会的責任を果たすことが求められています。
地域の産官学をはじめ、幅広いインフラ事業者との連携や信頼関係を
一層強固にし、地域のお客さまに寄り添った社会貢献を行っていきます。



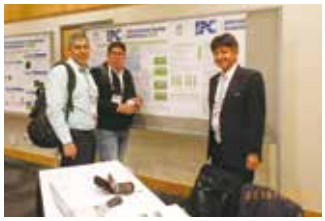
持続的社会への貢献

大学との災害対応に関する共同研究、自治体や他のインフラ事業者との災害時の連携協定や合同防災訓練、防災行事への参画による啓蒙活動などを通じて、地域全体のレジリエンス向上に貢献します。
導管工事におけるリサイクル、環境教育・食育の展開、環境保全活動や地域行事への参画などの活動を積極的に展開することで、地域に寄り添った社会貢献に取り組みます。

地域レジリエンス向上のイメージ


名古屋市上下水道局との合同訓練


自衛隊との合同訓練


名古屋大学減災連携研究センター（国際学会）


ぼうさいこくたいでの講演


地域の防災訓練

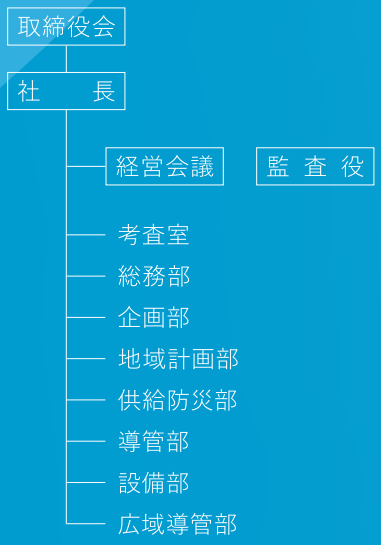

出前授業



出前授業

東邦ガスネットワークでは、未来を担う子どもたちの教育支援の一環として学校へお伺いし、実験や体験などを取り入れた出前授業を行っています。身近なエネルギーであるガス・電気のことや、防災について学ぶ「エネルギー・防災コース」、資源の有効利用や省エネルギー活動について学ぶ「環境コース」、環境にやさしい調理方法を学ぶ「省エネ料理コース」をご用意しております。

会社名	東邦ガスネットワーク株式会社
本社	名古屋市熱田区桜田町19番18号(〒456-0004)
設立	2021年4月1日(事業開始 2022年4月1日)
資本金	30億円
従業員数	1,000人(2026年4月1日時点)
事業内容	一般ガス導管事業　等
供給区域	愛知・岐阜・三重3県で35市23町1村
主要事業所	名古屋事業所　一宮事業所 春日市事業所　岐阜事業所 刈谷事業所　四日市事業所 岡崎事業所　津事業所



2026年4月1日現在